

1. はじめに：帝国としてのアメリカ

これまでのアメリカ合衆国の一国史の枠組みでは、東部一三州から始まった新興国家が独立後の領土買収、フロンティア開拓の結果、最終的にカリフォルニアを領有し大陸国家となる、西漸運動に貫かれた国民史の語りの中で大陸国家への道程は描かれてきた。(中略) アメリカ史ではフロンティア消滅の一八九〇年までを国内の西部開拓、経済開発に専念した時代と捉える傾向にあるが、一九世紀前半のアメリカ領土拡大は、アメリカ帝国の膨張そのものであり、ヨーロッパとの植民地争奪戦の一部であった（貴堂嘉之『シリーズアメリカ合衆国史②南北戦争の時代：19 世紀』岩波書店, 2019 年, 52-53 頁）。

アメリカ社会のなかにも、外にも、あるいはフィリピンのなかにも、さらには「アメリカという問題」と関わるあらゆる人々の——フィリピーノ移民の作家カルロス・ブロサンの言葉を借りるならば——「心のなか in the Heart」にある。そしてその境界は揺らぎ続けている。このような歴史像が浮かび上がるとすれば、「アメリカ帝国とフィリピーノ」の物語は一気に私たち自身の問題となることだろう（中野聡『歴史経験としてのアメリカ帝国：米比関係史の群像』岩波書店, 2007 年, 19 頁）。

◆19-20 世紀転換期の海外領土獲得：米西戦争

- ・キューバのスペインからの独立運動に同情的であったアメリカにおいて、1898 年メイン号がハバナ港で爆発、将兵 260 名が死亡したことをきっかけに、米西（アメリカ・スペイン）戦争が勃発。
- ・同時期にフィリピンでもスペインからの独立運動が展開されていたため、マニラ湾でアメリカとスペインの艦隊戦が勃発、アメリカが勝利する。
- ・米西戦争の講和条約によってプエルトリコとグアムがアメリカに割譲、パリ講和条約（わずか一票差で批准）によってフィリピン領有が決定。フィリピン側は反発。
- ・1893 年、アメリカ植民者と米海軍がハワイ王朝の転覆に成功、その違法性が合衆国議会で疑問視されていたが、米西戦争をきっかけに 1898 年にハワイを併合。

2. 反転する「自治」の論理と人種差別（カラーラインの壁）

◆米比戦争（1899-1902）

- ・米軍史上初の長期海外遠征戦争
- ・投入兵力 125,000 人以上、約 4,200 人の戦没者
- ・ジョン・ゲイツによれば、フィリピン側の被害はムスリム地域をのぞく戦没者 34,000 人、感染症被害 200,000 以上

◆反帝国主義連盟の活動

- ・「スペインとの戦争が征服戦争に墮落してはならない」
⇒フィリピン併合によってアメリカの諸制度・原則が破壊されることへの懸念
- ・「スペイン領諸島の人々の自由に向けた英雄的な闘争に全面的に共感するがゆえに、彼らの諸権利を主人の交代によって奪うことに抗議する」

◆「恩恵的/友愛的/慈悲深い同化 benevolent assimilation」という論理

フィリピンの市民権や自治への発展は、公正で人道的な政府の後見に基づくものではなく、[スペインの]不正と人間の最高の力の自由な行使への妨害によってなされたのだった。フィリピンの人々は[アメリカの]正しい指導のもとで、市民権と人種の発展に適するあらゆるものを考慮に入れて、発展の一世紀を迎えるだろう。

⇒併合賛成派ウィリアム・チャンドラー上院議員：「同化 assimilation」とは「類似」であって「混血」や「合体」ではない。「大統領は、われわれがこれらの人々フィリピン人をわれわれと適度に類似した状態にするべきだと考えている」
⇒植民地併合がカラー・ラインを超えて植民地人をアメリカ社会に浸透させることがあってはならないと考えていた。

◎フィリピンには、黒人、アジア（中国）人、先住民インディアンという三重の意味における既知の他者像が投影された

3. 「見えない植民地」と「敗者のアメリカニゼーション」

◆植民地と市民権

- ・南北戦争後の憲法修正第 14 条：アメリカで出生・帰化した者に市民権を付与し、そのことを他の法律に規制されてはならない
⇒アメリカの植民地に「市民権」を付与するのか？という問題と社会秩序

◆「非編入領土 unincorporated territories」の発明

- ・新植民地は合衆国の主権下にあり、合衆国が領有しているがゆえに、国際的な意味では外国 a foreign country ではない。その一方、国内的な意味 a domestic sense では、合衆国にとってそれは国外 foreign である。なぜなら同島は合衆国に編入されず、所有地として単に合衆国に付け加えられたに過ぎないからである。
⇒行政政府がその条約締結権を行使して外国から恣意的に併合した領土が自動的に「本土」に「編入」され、その結果として当該住民に不可侵の市民権を自動的に保障することになれば、それは「アメリカ市民権の全体を降格させる」

⇒もしもスペインとの条約が、合衆国に割譲されたすべての領土を編入することになるなら、条約が関係する数百万の人民が、議会が代弁するアメリカ人民の同意もなく、そしていかなる救済措置の望みもなく、われわれと同じ国の不可分の一部を成すことになってしまう。

◎フィリピン市民とプエルトリコ市民は「市民権のない合衆国人 the non-citizen U.S. nationals」という特殊な待遇が付与されることになった。

⇒「見えない植民地」の創造、フィリピン人は「帰化不能外国人」として、アメリカへの渡航は自由であったが、待ち受けていたのは差別とリンチであった。

⇒ハワイは人口の少なさと合衆国政府議会が太平洋の要石として恒久領土化する強い意志をもって臨んだことから、市民権を一括付与された。

◆敗者のアメリカニゼーション

・歴史家レイナルド・C・イレートの忘れられたファミリー・ヒストリー

①1970 年代の史料調査中に、父方の祖父が「革命軍のスパイ」として米軍情報部に監視されていた事実を発見。しかし、その「イスコお爺さん」は息子（レイナルドの父のラファエル・イレート）にそのことを知らせず、1904 年にアメリカに教員として採用されて以来、アメリカに敵対していた過去を沈黙し続けた。

②1920 年に生まれたラファエル・イレートは米比戦争のことをほとんど知らずに、アメリカに憧れを抱く「アメリカズ・ボーイ」として育ち、米軍特殊部隊アラモ・スカウトに配属。米軍退職後はフィリピンの国防長官にも抜擢された。

③レイナルド・イレートの妻の祖父ペドロが、米軍占領下のバタンガス州タナウアンで1901年はじめに初代町長に任命されたことが、妻の一族の誇りであった。

④ところがやはり文書館で発見した史料から、ペドロが町長就任後まもなく革命軍のゲリラと通じていた容疑で町長を解職され、投獄されていた事実を発見。

⇒イレート「新しい時代に成功することを切望し、そのためには革命に参加した過去、さらには反米だった過去までも消し去り、戦争があったということすら忘れなければならなかった」

・アメリカにおけるマイノリティの困難な戦略

⇒カラー・ラインに対抗するカラー・ブラインドな解放路線を追求するためには、よりいっそうアメリカニゼーションの信奉者になるほかに道がなかった

◆カルロス・プロサン『我が心のアメリカ *America Is in the Heart*』（1946 年）

我々は皆、無名の異邦人であり、家のない亡命者であり、飢えた少年であり、無学な移民であり、リンチにあった黒人の死体なのだ。我々は皆、創世紀のアダムから、現

代のフィリピン人に到るまで、この地で生れた者であろうと異邦人であろうと、教育があろうと無学であろうと、我々そのものが、`アメリカなのだ！（カルロス・ブロサン著, 井田節子訳『我が心のアメリカ：フィリピン人移民の話』井村文化事業社, 1984 年, 210 頁）

4. 歴史と記憶のジェノサイド：「マニラの死」

◆約束された独立：タイディングス・マクダフィー法（1934 年）

- ・フィリピン独立準備政府（フィリピン・コモンウェルス）による自治政府設立準備期間を経て、1946 年に「フィリピン共和国」としてアメリカから独立することを承認

⇔太平洋戦争による日本とアメリカのフィリピンにおける軍事衝突、日本の占領支配・残虐行為によって実質的な「独立」が阻害

⇒110 万人を超える戦争犠牲者を出した「東南アジア最悪の戦場」

⇒露呈したアメリカのフィリピン防衛体制のお粗末さ（ヨーロッパ戦線を優先）

◆エルミタのゲレロ家

- ・カルメン・ゲレロ・ナクピルの回顧録

⇒婚家のクルス家に日本軍が押し入り、カルメンの目の前で義父と夫を含む男全員が拉致され殺害。乳飲み子を抱えた妊婦だったカルメンは、マニラ戦の地獄を辛うじて生きながらえたが、深刻なアルコール依存とトラウマを抱える。

⇒カルメンが育ったマニラのエルミタは、もともとスペインのコロニアル様式を備えた風光明媚な街であったが、米軍の無差別砲撃や日本軍の応酬で焦土化し、原形を失った。

- ・兄のレオン・マ・ゲレロがフィリピンの英雄ホセ・リサール作品を翻訳する際、リサールの作品世界を脱ヨーロッパ化させて固有の地名を削り、アメリカ化せざるを得なかった理由だったのではないか。

- ・「マニラの死」

①スペイン時代から育まれてきた植民地都市の豊穡な文化と、多国籍的な魅力に富む生活様式を完全に抹殺

②スペイン文化を継承していたフィリピン・エリートの戦死

③戦争生存者のエルミタ・マラテ地区への逃避と記憶の継承の拒否（トラウマ化）

④エルミタ地区のアメリカ式上書きと日本人のセックス・ツアー化

◎日本のフィリピン占領によって、フィリピンは約束されていたアメリカからの「完全な独立」を失い、経済的・米軍基地的な対米依存を深めざるをえなかった